

# 真相究明ネット青森集会、大湊フィールドワーク、そして、名寄

# 飛田雄一

強制動員真相究明ネットワークの第17回研究集会が青森で開かれた。私は、庵溢由香さんと共同代表をしている。今夏は暑い。青森も暑かった。

青森集会は、8月23日、アピオあおもり。私は前日の大湊での追悼集会にも参加した。青森から下鳩義輔さん（岐阜）運転のレンタカーに同乗させてもらった。あのあたりの土地勘がなかったが、青森大湊間はけっこう距離があった。大湊は、1945年8月22日、浮島丸が釜山に向かって出航したが、24日に舞鶴で沈没した。地元の人々によって毎年この日に追悼集会が開かれている。



## 大湊集会／その後の交流会



## 大湊集会／その後の交流会

「第32回浮島丸出航追悼集会」、主催は浮島丸下北の会、後援はむつ市教育委員会。午後1時30分に始まった。会場は、むつ市中央公民館駐車場、湾を見渡す場所にある。海は静かだ。湾のほぼまん中、風はあるが波はほとんどたっていない。1945年当時、その場所はまだ埋め立てられていなかっという。海から30メートルほど離れた場所にある電柱が当時の突堤の先端だという。そこから小さな船に分乗した朝鮮人らが沖に停泊している浮島丸に移動したという。この辺りは水深が浅く、大きな船は接岸できなかつたのだ。

追悼集会の参加者は約 40 名。下北の会の村上準一さんが報告した。青森で生まれ育った村上さんは、地元の元高校教師で、この事件のことを教師になってから知ったという。「そもそも、なぜ青森に多くの朝鮮人がいたのか。疑問がわきました」という。(2025 年 8 月 19 日、毎日新聞)

集会では山本知也むつ市長のメッセージが代読された。

「「浮島丸」が出航した、この日、この地において、継続して追悼集会が開催されておりることは、筆舌に尽くし難い戦禍の悲劇の記憶と教訓を風化させることなく後世へと伝えるためにも大きな意義をもつものであり、村山会長はじめ「浮島丸下北の会」の皆様の御尽力に深く敬意を表します。／私は、戦争のない平和な世界を願うとともに、何よりもまず市民の皆様の命と暮らしを守ることを最優先に、そして次の世代を担う子どもたちが夢と希望をもって未来を切り拓いていける社会の実現を目指してまいりますことを堅く心に誓います。」

集会では他に、朝鮮人犠牲者追悼会（東京）世話人の梁大隆さん、むつ生活と健康を守る会事務局長の菊池嘉任さんがあいさつした。そして、献花がなされた。追悼集会後に中央公民館での交流会も充実したものだった。地元の田名部（たなぶ）高校の生徒の発表がとてもよかったです。

翌23日は、午後1時から、真相究明ネット集会。オンラインを含めて約70名が参加した。私は、ホテルに送ってあった資料集をリュックにいれて持ち込んだ。(A4、82頁、600円、送料250円。希望者は、郵便振替<00930-9-297182真相究明ネット>に850円の送金よろしく。)

前半の報告は青森関連のもの。①今村修（青森空襲を記録する会）「朝鮮人労働と大間鉄道、浮島丸」、②村上準一（浮島丸下北の会）「大湊施設部への動員と浮島丸事件追悼活動」、③小瑠史朗（弘前大）「青森・地域の歴史を語り継ぐ」、④竹内康人「海軍軍属個票からみた大湊施設部への朝鮮人動員」。



真相究明ネット青森集会／同資料集

後半は各地での調査・研究の報告。①ニコライ・ヨンセン（ロンドン大学）「欧米の視点から考える植民地支配の過去清算—「歴史戦」と「日韓対立」という枠組みを問い合わせ直す」、②韓恵仁（アジアの平和と歴史研究所）「朝鮮人遺骨調査の現状と課題」、③矢野秀喜（強制動員問題解決をめざす過去清算共同行動）「強制動員問題の現在地と私たちの課題」、④井上洋子（長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会）「長生炭鉱遺骨収容プロジェクト」（ビデオ報告）、⑤室田元美（ルポライター）「釜の墓標強制労働博物館の開館とその後」。いずれも充実した報告だった。司会は、庵溢由香さん、飛田は閉会のあいさつを行った。

青森市内中心部での懇親会も盛り上がった。



24日は、大湊フィールドワーク。午前10時半、下北駅集合。そこからチャーターバスで出発した。20数名。案内は竹内康人さんと下北の会の村上準一さん。

まず、大間鉄道工事関係。大間は下北半島の北の端、かの大間マグロの大間だ。アジア・太平洋戦争の時期に軍用鉄道として工事が進められたが、完成しなかった。



「下風呂温泉郷」駅？／「幻の大間鉄道」



大湊自衛隊／この電柱が1945年当時の突堤の先



案内の竹内康人によると、以下のとおり。

風間浦村の下風呂には鉄道用橋梁が残っている。現在では手すりが付けられ、再塗装され、駅舎も作られ、足湯が置かれるなど観光の場となっている。

るが、ここは瀬崎組が請け負った朝鮮人の強制労働の現場である。

大湊一帯は、戦時中、海軍大湊警備府が置かれ、潜水艦隊、航空隊、海兵团、防備隊、工作部、施設部などさまざまな部隊が置かれた。現在も自衛隊の部隊の拠点である。土建業者と大湊警備府との関係については飛内進『太平洋戦争下の大湊警備府』に詳しいとのこと。

その後、常楽寺に行った。海軍の戦没者の追悼碑があった。8月9日の空襲での軍艦攻撃による死者の名が記された碑もあったが、この日の空襲で死亡した朝鮮人軍属の名は記されてはいない。充実のフィールドワークだった。

フィールドワークののち、下北に泊まる人もあった。私は青森にもどった。けっこう乗りでがかったが、鉄道の旅がいいのだ。

青森ではまた東横イン青森駅前店。昨年、念願の八甲田山春スキーにきたとき、このホテルがとれなかった。まあいいだろうと「新青森店」をとった。青森・新青森は近いが、電車が少なく不便なのだ。今回は、ちゃんと駅前店に4泊した。



翌25日。今度は、北海道だ。名寄の友人を訪ねるのだ。元センター六甲奨学基金運営委員長の中畠孝幸さん、そして道北クリスチャンセンターの日向恭司さん。青森からついでに訪ねるには距離がある。おふたりにもそう言われたが、行きたいときに行かねばならない。

青森から名寄まで一日で行けることがわかった。朝7時半出発、夕方4時到着。はやて、北斗、カムイ特急を乗り継いだ。

北海道は、ひろい。だいぶ前、札幌から旭川の友人に今から旭川に行くので今晚飲みましょう、と夕方電話した。彼いわく。無理です。調べてみたらそうだった。遠いのだ。名寄は、その旭川から更に北にある。

中畠さんと飲み、その後、道北センターにもどり日向さんと飲んだ。DIYのウッドデッキがすてきだ。道北センターは宿泊もできていい。1985年に、NCC-URM「農業セミナー」をここで開いた。その時は、上士別町の五十嵐農場で民泊

もさせてもらった。それからずっと、農場の会員になり「宅配野菜」をもらっている。五十嵐紀子さんには、2021年、広島「共生庵」(荒川純太郎さん)でのセミナーにはZOOMで登場していただいた。(報告集があります。)

朝、付近を散歩した。名寄神社、同公園があった。神戸より涼しい。



道北センター／右から日向さん、中畠さん、飛田

ここまでできたら、朱鞠内に行かなくては。そこに「笹の墓標強制労働博物館」がある。北海道ワークショップは1998年からスタートしたすてきなプログラムだ。札幌の殿平善彦さんが代表。韓国側では、鄭炳浩さん。鄭炳浩さんは、1988年にむくげの会ゲストディにきていただいた。テーマは「在米韓国人の問題」。ちょうど、甲南大学イリノイセンターにイリノイ大学から派遣されたのだ。社会学者で日本語でも、『人類学者がのぞいた北朝鮮－苦難と微笑の国』(青土社)、『「劇場国家」北朝鮮－カリスマ権力はいかに世襲されたのか』(共著、法政大学出版局)の著書がある。ゲストディのとき、欧米系の留学生のホームステイ先はすぐ決まるのに、アジア系留学生が決まらないと言ってた。韓国語で鉄砲玉のように時間いっぱい講演してくれた。朱鞠内ワークショップのゲストに李泳禧さんが来られたことがある。帰路、大阪に鄭炳浩さんと来られて再会した。一昨年ソウルお会いして『人類学者が……』をいただいた。体調はすぐれないと聞いていた。昨年12月8日に亡くなられた。本当に残念だ。

ネットでは、以下のように紹介されている。「なぜかれらは苦しみの中でも微笑むのか。北朝鮮理解の最良の書。／マスゲーム、時代錯誤なスローガン、将軍さまへの思慕……。北朝鮮は一見、不可解な国だ。しかし、彼らの行動にはわけがあ

る。90年代後半から北朝鮮や中国でフィールドワークをおこない、NGOのスタッフとしても人道支援に関わる韓国の文化人類学者が、北朝鮮に生きる人々の心性、統治の背景にある価値観を豊富なエピソードと、分析をもとに描き出す。」

朱鞠内博物館には、中畠さんに車で連れて行ってもらった。翌日からワークショップがある忙しいときだが、矢嶋館長が、博物館と遺骨発掘現場などを案内してくれた。朱鞠内湖は、日本最大の人造湖だという。たしかに大きい。



殿平善彦さん／鄭炳浩さん／朱鞠内ダム堰堤

名寄からその夕方、旭川に移動。ここでまた東横インに泊まった。旭川での思い出は、2012年連れ合いといった「東北海道弾丸ツアー」。3泊4日で、知床、網走、摩周湖、旭川、札幌をまわった。有名な旭山動物園にもいった。動物園好きの私はバスの時間ギリギリまでウロウロした。と、オオカミ山から「遠ぼえ」が聞こえた。まさに遠ぼえだ。引き返した。オオカミ島のてっぺんでボスが月に向かってほえている。背筋がゾクゾクとした。閉園までうろついていてよかった。バスにもどったら、みなに白い目でみられた。

翌27日、旭川空港から伊丹空港にもどった。最近、飛行機の予約にミスが多い私だが今回はOKだった。実は、今回、名寄以外に「友をたずねて北海道」をする計画をたてていた。会いたい人がいるのだ。が、28~29日、関西セミナーハウスでエキュメニカル・ネットワーク協議会があった。私の担当は夜の懇親会の司会だけだったのだが、やはり参加することにした。こんどこそ、「友をたずねて北海道」を完成したいと思っている。  
(右、旭川、貸し切りで入れなかったビール館)

